

刊夕日六月一十

# 常盤每日新聞

定価 一部金五銭 六月金五拾銭 郵送別  
 廣告料 五部金 一文字 一行 金五拾銭  
 日曜 祭日の日 休刊  
 発行所 常盤毎日新聞社  
 印刷所 常盤毎日新聞株式会社

### 畑をすませて

舟生 金二

へりをたたくと、ぼこんぼこんと音のする野風呂に浸ると、おらの頭の上には草の葉の露みたいな白い宵星が、あしたともえ、天気をとわらつてくれる。

ひかりが碎け散る。樹はみんな水々した色に染められてしまふ。

山村は秋が早い。つめたく頬を過ぎる風におらは湯につけた手拭ひを頭からざぶりとかぶつて「おつね、湯がぬるいぞ」

乳色の夕靄が、ほの白い湯気からけぶつて山の峰が紫色にくすんでくると、懸て裏の山峡から、黄色いでつかい、月が、碧海の中の盪みたいに浮んでくる。しつとりと冷たい露をかぶつた夕顔や白桔梗や芙蓉などがおらの視野に涙みだいにぼや

暗い廂の中へどなる。クモが巢をばいばいに張つた天井の下で、おらに食はせる夕餉の煙を煽いでゐたおつねが汚れた手拭を被つたなりで冷つこい外の空気の中へ出て来た。ス、で黒くなつた顔に不平も見せず納屋に積んであつたまきを

持つてきて手斧で割る。かつんかつんと割る音が静かな谷間に響いて、山彦が同じ音をかつんかつんとかへしてくる。おらはその音を湯槽の中でこゝろよく聞く

と、さつき洗つてやつた牛が、納屋のうしろの小屋の中で、遠い声で鳴いた。「おつね、すまんあ」

## ノート

昔から五重塔に落雷した記録は嘗て無いといはれるこれは唐金の少しそつた形の屋根があるためだそ

うだ

## 紅葉の夏井溪

〔耕 影〕

仙境や籠場の瀧に碑のみみち  
 瀧もみちしふきに煙むり夕映す  
 瀨にせかる溪の流れや散るもみち  
 天峽に雲の去來や谷紅葉  
 紅葉晴れ桂月歌碑を仰ぐ人  
 溪谷の奇崖やもみち夕照りぬ

て、廚の妻をけた外れの聲  
 で呼んだ。  
 「おつねよ、もう冬ごもり  
 の仕度をせにやならんあ  
 ……」

## 吸入用酸素純度 99%

**度量衡**  
 モノサシ  
 マス  
 ハカリ  
**器量計**  
 体温計  
 寒暖計

**関内薬局**  
 電話四〇番  
 写真材料一式販賣致シマス  
 意匠登録 第六三三七八號  
 ▼本品は室内用、室外用の二種あり  
 ▼室内用は張方従来の通り生糊糊にてよろし  
 ▼室外用は特に室外用ノリにて張ればよろし  
 ▼本品は硝子、セルロイド以上の優秀點を具備す  
 ▼雨と風との神様が兩神一緒に暴れても室外用は平氣なり  
 ▼現品は普通障子紙巾にて(長さ九メートル)

**透明障子紙**  
 意匠登録 第六三三七八號  
 ▼本品は室内用、室外用の二種あり  
 ▼室内用は張方従来の通り生糊糊にてよろし  
 ▼室外用は特に室外用ノリにて張ればよろし  
 ▼本品は硝子、セルロイド以上の優秀點を具備す  
 ▼雨と風との神様が兩神一緒に暴れても室外用は平氣なり  
 ▼現品は普通障子紙巾にて(長さ九メートル)

●定價  
 ▼室内用 六十銭  
 ▼室外用 八十銭

●室外用ノリ 一罐 二十銭

平町四丁目  
**夕伊勢屋 阿部商店**  
 電話四五番

●賣弘め中粗景手拭一本呈上

**吉田眼科病院**  
 平紺屋町 電話六八番  
 醫學士 吉田久雄

10日  
**体温計の検査日です**  
 機新 設置 お宅の体温計は?  
 ◎正確な体温計を御使用下さい  
 ◎毎月十日の検査日御利用下さい

度量衡 指定販賣人 **西村屋薬局**  
 計量器 電話三番

銀座へ御越の節は是非會館へ  
**平會館**  
 紅茶 一〇  
 一品料理 二〇  
 ランチ 五〇  
 御宴會 御集會 御相談次第  
 電話五七五

磐城セメント會社特約店  
**久益屋商店**  
 磐城平町五丁目 電話九番九九番  
 □良品廉賣に勝る商略なし  
 □確實敏捷は久の生命なり

**中村齒科醫院**  
 平町 鍛冶町七



# 社 來る土曜日

## 試合を續行

本社主催中等學校教員野球大會の續行  
試合警中對平商戰は來る十日（土曜日）  
午後一時より警女校庭に開始する事に  
決定、此結果各校一勝一敗の場合は翌  
十一日（日曜日）午前八時よりトーナメ  
ントに依り優勝を決すべきに依り一般  
の御來觀を乞ふ

# 惜しい事に 區域が短い

## 來年度は全鋪裝

縣當局の意嚮を洩らす

と大喜びである

縣土木課警崎、田中兩技手  
は昨五日來平、竣功成つた  
平町の國道鋪裝を檢査した  
が兩氏は小林平土木監督所  
長に左の如き感想を洩した  
本工事は當地方最初の鋪  
裝工事であつたに拘らず  
檢査の結果、全く美事な  
完成ぶりである唯、惜し  
むらくは鋪裝區域が短い  
ため諸方より運ばるゝ泥  
砂の爲に汚損されること  
で來年度には是非とも全  
區域を完成するとともに  
接續道路の鋪裝實施を期  
する必要がある

## 職業別

警中に於ける生徒現在數は  
一千百三十五名であるがこ  
れ等生徒の保護者職業別は  
左の如くである由

農業三一 商業一九四  
會社員一四四 官兵吏一  
二三 教員六五 無職五  
二 工業六四 醫師三五  
醸造業一三 請負業一五  
銀行員一三 坑夫一一  
鑛業一〇 僧侶一二 漁  
業一四 旅館業九 料野  
屋九 辯護士五 理髮業  
六 精米業四 神職二  
運送業四 其他二〇

## 優秀菊花 入賞決定

### 平町品評會

來年は公園で盛大に  
平菊會主催第九回菊花品評  
會は去る一日より今六日迄  
平署會議室で開催したが出  
品二百五十餘うち主なる入  
賞者左の如し、なほ明年は  
町後援の下に松ヶ岡公園内  
で盛大に開く計畫であると  
（優等）「全世界」竹原次英  
「大東觀」小松竹作「高砂」  
櫻本爲一（一等）「春の調」  
渡邊喜重「金華山」同「紅  
玉櫻」鈴木經男  
▲切花（優等）「吾妻八景」  
渡邊喜重（一等）「錦の雪」  
一色増太郎  
▲懸崖（優等）「富士野」飯

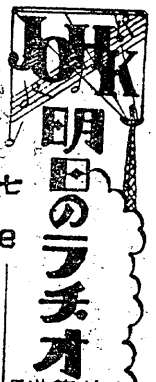
# 麥飯を食へ！

## 國防婦人分會が 精神作興週間に

### 一般家庭への實施事項

平町國防婦人分會では來る  
七日から十三日まで全國一  
齊に催される精神作興週間  
に際し左記實行事項を會員  
一般に實施して趣旨普及に  
努める外精神作興に關する  
詔書發給記念日の十日は克  
己日として「酒、煙草なしデ  
ー」と定め一般家庭にも實  
施せしめることになつた

一、非常時國民の覺悟を新  
にし舉國結束難關突破に  
邁進せしむることに勉む  
ること  
二、國民相戒めて自己を反  
省し家族的協同生活の本  
義を諒得すること  
三、克己忍苦の修練に耐へ  
能く各自の業務に碎勵し  
其の生活充實の向上を期  
すること  
四、東北六縣の凶作に鑑み  
會員一同の家庭は麥飯の  
常食を勵行すること  
五、會員は毎朝午前五時半  
起床を勵行すること  
六、週間中克己により節減  
し得たる餘財は多少を論  
せず之を醸出し國防費金  
國債償還資金に献し又は



明日のラチオ  
七  
今朝の天気  
今晚も明日も北  
東の風曇り模様

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話「政宗公の少年時代」  
小島甲午郎  
後六、二五 英語講座（四  
の三）舟橋雄  
後七、三〇 講演「近時の  
田近治（一等）小町櫻」根  
本常次郎

## 他人の當つた 無盡の金で遊ぶ

### 毎夜花街に出入

去る一日から毎夜の如く平  
町花柳界で豪遊を極める奇  
怪な男あるを平署で探知立  
廻先調査中昨五日午後十時  
頃南町料理店喜樂で遊興中  
の男を平署大谷刑事が取押  
取調べたところ右は四倉町  
本町新道無職宮本康一  
（三〇）で去月三十日久ノ濱町  
字江の網船主渡邊清一氏所  
有の磐城無盡に當籤した百  
九十圓の受取方を依頼され  
たのを奇貨とし受取金を着  
服前記の如く連夜遊興を續  
けてゐたものと判明した檢  
査された際は百九十圓の中  
殘金僅か七十圓であつた

### 校外取締協議

平町  
内各學校の校外取締協議會  
は來る九日午後二時より警  
中會議室に於て開く

### イナゴの純益

玉川  
村小學校では去月三十日か  
ら毎日全校生徒がイナゴ採  
りを行つたが近くこの純益  
で運動器具を購入すると

### 裁判所たより

△好問村大字上好問字石田  
一炭拾噓噓富治（三）同村字  
道成河原三七日雇唐糸友吉  
（三）の兩名は同村字南町田  
小林與茂吉氏方に於て外二

後九、三〇 時報 ニュ  
ス 氣象通報 番組豫告  
明日の部  
前七、〇一 實用文講座  
（二）金子彦二郎  
前七、三〇 神典講義「古  
事記」（五）文學博士植木  
直一郎  
前八、〇〇 婦人文學講  
座「新古今集」三石井直三  
郎  
後八、〇〇 吹奏樂 桃谷  
演奏所より中繼一行進曲  
風雨の豫報ブルネー曲  
に充つること

### 平町人事

△古銀治町七 大輔氏長女  
矢吹玉子さん（二）湯本  
町字三國一〇五千葉英一  
氏（二六）  
△三丁目一 萬次郎氏二女  
佐藤トヨ子さん



# 新立頭

田邊南龍(作)  
山本美春(筆)

一七六

權兵衛喜三郎の仲裁  
其奴をヒラリと體を轉して空を流れて踏踏く小手を取つて肩に擔ぎスパーリと金兵衛が投げた、起上らんとする處をビタリと押へ付け、一人は綱右衛門臨んで切込んで来たのを身を轉して彼の武士の小手をバツと打つたから真劍ポロリと落し小刀の柄に手を掛けやうとしたのをズデントと投げ、兩人で兩人をビタリと押へ付けてギューの音も出ません、流石の二人も今は酔が醒めちまつて眞ッ蒼になつて居る

「平に御用捨に預かりたう存じます遂食へ酔つて居りましたに依つて前後忘却遂人々の迷廻るのが面白さに刀を振廻して歩きましたのは吾々共の不調法、何うかお助け下さるやうに願ひたい」  
と酔が醒めて了つて、

貴郎方の命を取る役目でない、夫りや取つても差支ひないが命は拙者が助け遣はす、小鬘をそいで屋敷へ歸つて如何やうな罪科仰せ付けられるとも切腹仰せ付けられるとも夫は此方の知つたことではない、早く主名と自分等の名を名乗らつしやい」  
「何うぞ平に御用捨に預かりたう存じます」  
「勘辨ならん、何うしても主人の名は名乗れないか」  
「ハイ主人の名を出します



人とは思はれない御主人のお名に係はるやうなことをなすつて夫れで面白いか、御主名を仰しやい御兩所の主名を承はつた上で御兩所の小鬘を削つて御主人の家へ對して吾々が送り届けて進めるから、吾々共

るに忍びません」  
「道理だ、ちやア聞かなくつても宜い、小鬘だけはそいで呉れるから覺悟をしろ……」  
とキラリと脇差を引抜いて今や兩人の小鬘をそがうといはれて居ります、

此方の茶見世で此體を見て居りました五人の俠客、喜三郎は年が一番若うございませうから我慢が出来ません  
「權兵衛兄、あの侍二人が刀を振廻して女子供年寄を追廻してワア、と云つて泣くやら喚くやら逃ぐるのを面白さに、追駈けて居たは如何にも憎い侍ぢやアあるが、ア、やつて旗本三人が差圖をして旗本の供をして居た二人の侍、一人は赤ッ面で一人は背ッ面の奴に取押へられ、酒の上だから助けて呉れろと頼んである、涙をこぼさねえばかりにして只管あやまつて居るのだから、好い加減に勘辨してやつたつて宜いぢやアねえか、餘りと云へば非道いぢやアねえか、なア、誤つて改むるに憚ることなれとか何んとかいふ、悪いことをして是から改めれば宜いわと云つて済むものぢやアねえか」

## 市原醫院

平町 田町  
電話一四四番

## 黒小倉通學服賣出

### 一望秋色

さあ御召替です  
かかやには皆様の御満足の得る品が何時も澤山揃へて御座います

- 小學生用 (長ズボン付)
- A.....90
- B.....1.10
- 特製品.....2.35
- 中學生用
- 特製6號.....3.50
- 御注文(特上).....6.30

ふかや洋服店 平町 三電203

石炭  
コークス炭  
玉炭



阿部石炭商店  
電話三七番

## 喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平町 九六  
喜多流 謠曲 仕舞 白土會  
詳細は本會へ御問合せ下さい 電二二七番

## 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科 レントゲン科  
平町田町 電話五二三番

## 外科 内臓 外科

醫學博士 諸橋 鐵彌  
◎新川町二七 (電四六四)

## 仙の干やなぎ

味覺の秋!!  
賣初めました  
其他鯉節、鯉鹽辛、いか鹽辛  
★鯉の子入荷致しました★



鈴藏魚店  
電話六六一番